

第1回伊佐市総合教育会議議事録

1 日時

平成27年5月13日（水）午後1時30分開会、午後2時15分閉会

2 場所

伊佐市役所大口庁舎 2階 第1会議室

3 出席者

委員（隈元市長、森教育長、永野教育委員長、川原教育委員、長野教育委員、久保田教育委員）

事務局（中馬企画政策課長、西政策第1係長、川原政策第1係主査）

関係者（山下教育委員会総務課長、木原田学校教育課長、中村社会教育課長、山元文化スポーツ課長、倉田学校給食センター所長）

4 議事録

- 伊佐市総合教育会議運営要綱の承認について
事務局より要綱を読み上げ、会議に諮る。委員からの異議なく承認。

(1) 教育大綱の承認について

・事務局

教育大綱とは、教育の目標や施策の根本的な方針であり、今回の法改正により地方公共団体の長が定めるものとされた。

伊佐市教育大綱の策定について、伊佐市では、第1次伊佐市総合振興計画を踏まえ、国・県の教育基本計画を参酌した「伊佐市教育振興基本計画」を平成25年3月に策定しており、この計画は伊佐市教育の根幹を成すものであることから、その基本目標と基本方針をもって「大綱」に代えることとしたいと考えている。

大綱の策定については、文部科学省から、地方公共団体において教育振興基本計画を定める場合には、その中の施策の目標や施策の根本となる方針の部分が「大綱」に該当すると位置づけることができるものであり、首長が総合教育会議において、教育委員会と協議し、当該計画をもって大綱に代えることと判断した場合には、別途、大綱を策定する必要はないということが示されている。

伊佐市教育振興基本計画において基本目標は、「伊佐のふるさと教育」

の推進であり、(1)地域と学び、未来に生かす人づくり、(2)伊佐らしい活力ある教育、文化の創造に努めると定めており、基本目標を実現するための基本方針として、①時代を超えて変わらないもの、価値あるものを大切にす教育、②社会の変化に柔軟に対応する教育、③学校・家庭・地域・企業・各種団体等の相互連携・協力、④人・地域が活性化する交流の促進、⑤人権同和教育の推進の5つを定めている。

伊佐市教育大綱の期間については、教育振興基本計画の基本目標と基本方針をもって、教育大綱に代えることを考えているため、大綱の期間も、この基本計画の前期事業計画に併せ、平成29年度までの3年間としたいと考えている。

▶議長（隈元市長）

事務局の説明に対し、意見、質問等はないか。

～委員の発言なし～

▶議長（隈元市長）

教育大綱については、事務局の説明した内容で承認としてよいか。

▶委員

異議なし。

▶議長（隈元市長）

教育大綱については事務局の説明した内容で承認とする。

(2) 平成27年度の教育方針について

▶森教育長

今年度の教育方針として、第一に、今年度は大口中央中学校の開校の年であるとともに、伊佐の教育躍進の年としたいと考えている。その中で、「はい」の返事と明るくあいさつを基本とする。このことについては、教職員着任式でも話をした。

第二に、大口中央中学校はもちろんだが、菱刈中学校も含めて市内中学校の充実を図ることである。

第三に、学力向上の取組みとして、二つの事業を計画している。一つは、小中一貫教育の実施を菱刈中学校校区で今年度から3年間計画して

いる。もう一つは、大口径中央中学校校区を対象とした英語教育強化地域拠点事業の実施である。これは文科省の事業であり、鹿児島県内では最初の実施である。小学校、中学校だけでなく大口径高校も含めて強化地域に指定し、英語教育の充実を図る計画である。

第四に、特色ある義務教育の実施と高校の連携である。まず、文化活動による連携として九州交響楽団を招いての演奏会及び中高生徒への指導を計画している。また、疎開70年となる今年は、種子島への修学旅行を計画し、2校の小学校が参加している。

この他にも、土曜いきいき講座の実施や国民文化祭、国体へ向けての取組みなど計画しているが、主な方針としては以上のものを考えている。

▶議長（隈元市長）

説明に対し、意見、質問等はないか。

～委員の発言なし～

▶議長（隈元市長）

議長であるが発言させていただく。

中高連携については、「種」をまくだけではなく、具体的な「芽」が出るようにカリキュラムとして取り組んで欲しいと考えている。

例えば、九州交響楽団に関しては、大口径中学校の閉校記念式からの繋がりであるが、少なくとも3年間は継続する必要があると考えている。高校生への指導を小中学生が見ることで、地元の高校の魅力が増すと考える。

また、市民体育大会については実行委員会を立ち上げ、高校生に参加してもらうことなども将来的には必要ではないか。生徒がコミュニティの役員と連携することで、中高生が地元を目を向ける効果があると思う。

中高連携、准看護学校も含めた4校の高校との連携については、文化面とスポーツ面での実施を検討して欲しい。文化、スポーツであれば県教委に頼る必要もなく、地域と学校がどう連携するかが重要となってくる。このことは地方創生にも関連してくると考える。

▶永野教育委員長

中高生に市民体育大会への参加の機会を与えるのは良いことだと思うが、コミュニティ、地域活動への中高生の参加がないのが現状である。

昔は地域行事への青少年の参加が多くあったが、現在の参加はほとんどが高齢者である。地域行事への参加の強化を図る必要があると考える。

▶議長（隈元市長）

平出水校区など、コミュニティが中高生に声をかける地域はうまくいっている。行政が中高生を引き入れるように、コミュニティへ働きかけることも重要だと考える。

▶永野教育委員長

中高生に声をかける人が地域にいないのと、「声はかけるのだが出て来ないのだよ」という部分で終わっていることが多いと思う。

▶森教育長

私は、自分の地域を見ていると、地域行事への参加に対する地域の素地はあるのではないかと考える。時代の流れの中で、どこかで中高生が地域行事へ参加しなくてもいい雰囲気を作ってしまったのではないかと考える。

▶議長（隈元市長）

学校活動は計画的に行われており、スケジュールも組まれていると思うが、社会教育を学校教育にも組み入れていき、中高及び地域の連携の「芽」を出させることが重要だと考える。

以上

